

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300061		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム 湯田あいおい苑		
所在地	山口県山口市下市町2-1		
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 25 日	評価結果市町受理日	平成29年1月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年8月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員間で理念を常に再確認し共有し、虐待 不適切な対応を見逃さない、風土づくりを心掛けている  
 入居者の持てる力を維持できるように状態を把握しながら関わりを持つようにする。  
 湯田温泉街の立地条件や環境を十分に生かした散歩や外出、地域活動等を行う事で苑内だけでなく苑外に目を向け地域資源を生かした日常生活を大切にしている。  
 外出を特別なものとせず行事として特別な日に特別な事をするばかりではなく、毎日流動的に在宅と同じように行いたい事を実行できるように支援している。  
 生きる喜びに繋がる支援として「食」に関心を持ち楽しみにつながる様にする。苑内の食事に関わる作業(炊 食事準備)を行ったり散歩や休憩時には持参のお菓子、や外食などの工夫をする。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月、職員全員に、独自に工夫された記録用紙に「利用者の尊厳が守られているか」を記述してもらい、事例を通して話し合われ、「その人らしく最期まで尊厳のある人生を」という理念を確認して共有され、実践につなげておられます。地域の公民館で開催されている高齢者が楽しめる「サロン」や地域の祭りへの参加、公園や足湯の利用、蛍を鑑に出かけたり、地域の保育園の行事に年間通し参加して交流されているなど、地域にある資源を夜間の外出も含めて多く活用され、利用者の楽しみごとや気分転換の支援をしておられます。1年に1度、利用者の「したい事、行きたい所、会いたい人」などの個別の思いを実現される「スペシャルデー」をもうけられ、外食や外出、買物などを実現されるよう支援しておられます。家族とのコミュニケーションを大切にされ、面会時の対応や連絡、報告、毎月の活動状況の送付など、家族が気軽に意見や要望が言えるような機会や場面づくりをされて、家族との信頼関係を深められ、利用者一人ひとりのその人らしく穏やかでゆったりした生活につなげておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「その人らしく最期まで尊厳のある人生を」を事業所理念とし、職員間で理念の共有を常に再確認できる場を設けている。虐待不適切な対応を見逃さない、風土づくりを心掛けている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、方針と合わせて事業所内に掲示している。今年度の課題である「利用者一人ひとりの尊厳が守られているか」について月に1回、事例検討を行い、独自に工夫した記録用紙に職員全員が記述し、話し合って確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入している。自治会活動(総会参加、町内清掃、回覧板の配布、保育所行事、町内祭り参加、場所の提供、)を積極的に行っている。	自治会に加入し、年4回ある清掃作業(草取り、溝掃除)や神社の清掃、公民館の清掃作業に職員が参加している。利用者は地域の夏祭りや温泉まつり、神社の祭りに出かけている他、公民館で2ヶ月に1回開催している秋葉サロン(お楽しみプラン)に参加している。地域の保育園の行事(花祭り、運動会、夏祭り、クリスマス会、卒園式)に、利用者と職員が一緒に参加して子ども達と交流している。利用者は職員と一緒に、地域の商店街で買物をしたり郵便局を利用している他、足湯を楽しんだり、隣へ回覧版を回したり、近所の人から花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に地域の一員として交流している。ボランティア(手芸、音楽、踊り)の来訪や中学生の職場訪問、短大生の介護実習を受け入れている。地域の祭り時の集合場所や子ども神輿の待機場所として、駐車場を提供するなど、地域行事に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の行事や、地域の方 ボランティア、保育園児、実習生の受け入れ等を通じて入居者との交流を持つ中で認知症の方々への理解と支援の方法を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が自己評価及び外部評価について参加している。職員会議の場で評価について話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	管理者は、評価の意義を職員に説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布して記入してもらい、一人でまとめている。職員は自己評価を日々のケアを振り返りの機会と捉えている。前回の外部評価結果を受けて、事故防止への取り組みや個別ケアの充実を目標にした職員間の情報の共有と連携の在り方やコミュニケーション技術についてなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会の方々、地域包括支援センター職員、保育園職員 入居者、入居者家族などに参加してもらい、苑の現状報告や行事などの内容をわかりやすく説明し、参加者との意見交換を行う事でサービスの向上に生かしている。	会議は年6回開催し、利用者の状況や行事報告、外部評価結果等の報告をして、話し合いをしている。参加者から、地域行事の紹介や地域にある自主防災組織の紹介、夜間外出時のアドバイスなどがあり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員との情報交換や意見交換や相談など行っている。市担当課には推進会議参加や電話などを通じて相談し連携を図っている。山口市社会福祉協議会介護相談員の訪問などを通じて、常に自己研鑽する体制を確保している。	市担当者とは運営推進会議時や電話で情報交換や事例相談を行い、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは電話で情報交換や事例相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策委員会を中心に情報収集を行い職員会議にて現状や新たな情報提供等を行い身体拘束防止についての情報の共有化を図っている。玄関もスピーチロックのない環境の中で夜間以外自由に入出りできるように開放している。	全職員は安全対策委員会を中心に実施する身体拘束に関する研修を通して、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者があれば一緒に出かけるなど、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者やリーダーが指導している他、職員間でお互いに注意あっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会を中心に情報収集を行い職員会議にて現状や新たな情報提供等を行い虐待防止についての話し合いの場を設けている。虐待に対する問題意識を高め見過ごされることのないよう職員同士で指摘し合える環境に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用の入居者が1名おられる。管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について職員会議で知識を習得し、適宜適切に対応できるよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、又は改定などの際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解や納得して頂けるよう何度も説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員を明示し苦情処理の窓口を明確にしている。玄関には意見箱の設置を行っている。運営推進会議には毎回全家族に案内状を送り、家族来苑時には積極的にコミュニケーションを図るなどして家族が要望等を伝えやすい環境作りに努めている。	重要事項説明書の中に苦情受付担当者や第三者委員、外部相談機関を明示し、契約時に家族に説明をしている。家族からは、面会時や運営推進会議時、行事参加時、電話等で直接意見を聞いている。意見箱を設置している。面会時には、職員の方から言葉をかけて、家族が話しやすいように配慮し、毎月、事業所便りと利用者の活動状況を文書で知らせるなど、意見や要望が言いやすいように工夫している。年に1日、介護相談員の訪問があり、利用者は相談や要望を表す機会があり、終了後には利用者の要望や相談員としての気づきについて聞いて反映している。意見や要望は申し送り簿や介護記録に記録して職員間で共有している。家族からは、各行事に参加したいとの要望があり、事前に家族に情報提供を行うようにするなど、運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回(春、秋)の個別面談や職員会議、委員会会議で職員からの意見、提案、要望を聞いている。職員の状態を見ながらその都度必要に応じて個別面談を行ったり、日常の会話から意見を聞くなどし運営に反映している。	管理者は、月1回ある職員会議や委員会(安全対策、環境整備、栄養管理、広報、業務改善)、カンファレンスで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、年2回ある個人面談時に職員からの意見や要望を聞いている。リーダーと協力して、日頃から職員が気軽に気づきや意見が言えるように雰囲気づくりに努めている。法人本部から、夜間勤務時間変更の打診があり、これに伴う各勤務帯での業務内容の変更や課題、情報の共有の在り方について職員からの意見や提案を、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートや個人面談により個々の思いを十分に把握し目標を設定するなどし、目標や理想を目指す喜びに繋がる環境作りに努めている。法人内の週1回の統括会議では現状報告を行い法人幹部との話し合いの中で職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートや個人面談により個々のケアの実際と力量を把握するよう努めている。外部研修は掲示板や連絡ノートを利用して情報提供を行ったり、レベルに応じて参加の機会を設けている。研修会終了後は復命報告をし共有している。毎月ごとの職員会議にて虐待についてのチェックや話し合いの場を設けといる	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命書を提出し、回覧後、内部研修の場で報告して全職員で共有している。内部研修は月1回実施し、外部研修報告(グループホームの在り方、介護記録作成、コミュニケーション、感染症対策、職員のスキルアップ、リスクマネジメント、高齢者の特徴と疾病、接遇)や虐待勉強会(利用者の尊厳が守られているかを主題に日々のケアについて話し合う事例検討)を実施している。新人研修は法人での研修が終了後、日々のケア場面を通して管理者や先輩職員から指導を受けて介護の知識や技術を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会にて認知症関係のネットワークづくりを行い勉強会に参加している。山口市介護サービス提供事業所連絡協議会の施設部会に参加し、同業者との交流を図り、サービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅や施設でご本人とご家族との面接を行い要望等を聞き不安が内容に説明を行う。入居後は家族や慣じみの関係の方に訪問して頂くなどして今までの生活に近い形をとりながら不安を取り除き安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の時間や電話連絡をし、ご家族の不安なことや要望を聞きながら全職員で情報を共有している。コミュニケーションを密にしながら関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状況や要望が変化するごとに報告し入居前のケアマネなどから連携をとる等、家族にサービス利用を理解して頂けるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の持っている力を把握し、本人主体を基本としながらできない部分を支える関係を築いていけるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に入居者の日常の状況を知らせ、共に喜びあい考え、家族からも話しかけやすい環境を作り情報を得る努力をしている。本人にとって何が一番最善な事かを家族と共に考えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族や友人の面会、外出、外泊、電話(携帯電話含む)や手紙等で関係を継続している。行きつけの美容院利用や墓参り、馴染みの湯田地区商店街利用等の支援をしている。	近所の人や幼馴染み、職場の同僚、親戚の人の来訪や家族の面会がある他、手紙や年賀状、電話での交流を支援している。馴染みの美容院の利用や商店での買物、思い出の場所へのドライブ、馴染みの店での外食等の支援をしている。家族の面会時や来訪者にはお茶を出し、居室に椅子を持参してゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。家族の協力を得て、一時帰宅や外泊、外出、墓参、法事に参加するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりがもてるよう席の配置や日常生活の中で外出や作業などを通して自然と会話が生まれるような環境を作っている。関係性の築きにくい方は職員が間に入り互いの交流がもてるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、タイミングを見ながら連絡を取り、終了後の様子を把握している。相談や支援に応じて関係を大切にしながら「縁」を大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日常生活の関わりの中で集めた情報を介護記録やアセスメントシートに記録し職員間で共有している。困難な場合は家族から情報を得たり本人の様子から本人本位に検討している。	入居時のアセスメントシートやセンター方式のシートを活用している他、日々の関わりの中での、利用者の表情や会話、言動を介護記録に記録し、介護計画に反映したい内容(したい事、行きたい所、会いたい人、好きな事等)はマーカーで記して、思いや意向の把握に努めている。年に1度、スペシャルデーを設けて、個別に思いを実現する支援をしている。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活歴や馴染みの暮らしや環境を聞き過去の様子を把握する。本人との会話の中からもヒントとなるような情報を大切に、現在の苑生活が充実したものになるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの活用や職員間での情報を共有していく事で本人の自己資源や能力を見極め現状の把握をして行くことで支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ひとりづつが入居者の担当を持ち担当者が中心となって家族や必要な関係者と連携をとっている。定期的なカンファレンスやモニタリングを行い様々な情報を得て意見や要望が反映できるように現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって月1回ケアカンファレンスを行い、本人、家族の思いや意向、主治医、看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月に一度のミーティング(職員会議)では「生活の様子」として個々の利用者の状態の報告をして職員間で共有している。6カ月に1回モニタリングを実施し、計画の見直しをしている他、利用者の状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、生活記録、身体チェック表等の見直しを行い毎日の送りやカンファレンスを行う事で情報を共有し実践や、介護計画に生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に個別支援を念頭に本人の状況やニーズに応じ職員間でケアについて話し合い、見直しをしている。状況に応じて画一的にならないよう工夫し場合に応じては業務改善を行いながらし支援に努めている。他事業所のサービス等も情報交換しながらヒントにつなげていく事もある。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や市報、新聞広告等で地域情報を見やすく壁に掲示したり閲覧できるようにし希望を出しやすい環境を工夫している。地域資源(保育園 スーパー 美容院 足湯 公民館 商店街 )を利用しながら毎日を過ごしている。又、近隣住民や商店街の人々などに見守られて落ち着いた生活が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を尋ね、希望であれば継続できるようにしている。定期往診や体調不良時には家族と連携を取りながら協力医療機関へ病状に応じて専門医の受診を行っている。受診後は家族へ状況報告、相談、今後の経過、方向性など常に行いながら体調管理に努めている。	利用者や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。月に一度の定期受診や他科受診は家族の協力を得て支援している。協力医療機関は、月に一度の訪問診療がある他、休日、夜間、緊急時の対応について協力を得ている。受診結果は電話で家族に報告し、介護記録に記録して職員間で共有している。日々の健康管理は週に一度、来訪している訪問看護師と連携して介護職員が行い、状態の把握や急変時の対応等、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや様子観察を行い、変化や、何か気づきがあれば随時、訪問看護師に電話連絡や訪問時に報告相談をしている。定期訪問看護時には定期的な採尿や採血など行い日々の様子を報告し連携を図りながら適切な受診 看護が受けられる体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には家族や医療連携室と情報交換を行い身体状況の把握に努める。家族での対応が困難な場合は付き添いながら相談を受ける。退院時には家族や医療連携室、職員との話し合いの中で早期に隊員ができるように、身体状況を把握しながら協議している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者や家族に事業所の基本方針を伝えていく。又、重度化した場合の話し合いを家族、医師、関係者、職員で話し合いを行い、事業所で出来ることを説明し、方針を共有し支援に取り組んでいる。	「重度化対応指針」があり、契約時に事業所でできる対応について家族に説明して書類で意向を確認している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族や主治医、訪問看護師等、関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	入居者個々の身体状況を把握し、個々の担当者が入居者それぞれのリスクをまとめ情報を共有する。又安全対策委員会が中心になり職員間で情報を共有しながら事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットや事故報告書提出、又、専用ノートを活用し早急の情報共有を目的に即時の話し合いを行っている。まだ全職員が応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施には至っていない。	事故等が発生した場合は、ヒヤリハット、事故報告書に発生状況と対応、再発防止に向けた今後の対応を記録して回覧し、安全対策委員会が中心となって、再度、会議の中で話し合い、一人ひとりの事故防止に努めている。消防署が主催する救急救命法(AEDの使い方含む)を受講しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急処置や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。過去の災害事例を基に夜間や漏電等の対応等、緊急災害時の訓練を行っている。推進会議では地区の交番に協力体制を依頼している。消防団との協力依頼はしているが体制はまだ整っていない。	消防署の協力を得て、年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者も参加して実施している。運営推進会議で消防団の紹介があり、交番には避難時の協力依頼をしているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。非常時に備えて水や食料の準備をしている。	・地域との協力体制の構築
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、入居者一人一人の尊厳を大切にしながら声掛けを行い、入浴時や排泄にも気を付けながら誇りやプライバシーに配慮し全職員が対応している。	職員は外部研修や内部研修で学び、利用者的人生の先輩として尊敬の念を持ち、自分の身内であったらと自問しながら誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いには留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員による指示的な声掛け誘導ではなく、本人の思いを大切に会話や様子からの気づきの中で職員が関わりを持つようになっている。全職員に「不適切な支援をなくす」ことを再確認し「常に意思確認」から始め「入居者の思いを自ら表すことのできる環境」の実践に努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の様子をよく知ることから一日を始め、会話や様子などからその時の思いを見逃さず、本人に合った個々の支援に努めている。職員主体の流れでなく入居者主体の流動的なペースを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の衣類や整容時の選択には自己選択決定を行いやすい環境を本人に合わせて作っている。お化粧をしたり、買い物時に身だしなみに関する物品を購入したり、理美容院の利用等、家族の協力と合わせながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と育てた苑の畑の野菜や近所の差し入れ等を使い入居者と職員で下ごしらえや調理などを行っている。包丁や調理器具を使用したり、野菜の皮むきや、味見をするなど個々に応じた支援をしている。配膳下膳もそれぞれに支援をしている。	利用者の好みを聞いて献立を立て、苑の畑で取れた野菜や差し入れの野菜等の新鮮な食材を使って三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、食材の買物に行き、野菜の下ごしらえ、包丁で切る、味付け、盛り付け、お茶汲み、箸を並べる、テーブルを拭く、トレイを拭く、トレイを洗う、食器を洗うなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて話を弾ませながら、同じ物を食べている。おやつづくり(寒天、ゼリー、ホットケーキ、白玉団子、かき氷)、テラスでの食事やおやつを食べるなど戸外での食事、月に一回の外出、食べたい物を献立する誕生日食、季節行事食(おせち料理、恵方巻、節句に寿司、ソーメン流し、スイカ割り)、保存食づくり(梅ジュース)など、食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や希望を反映し体調に応じてバランスのとれたメニューを考え個々に合わせた食事量で対応している。一日の水分量を介護記録に残し情報の共有をし把握している。水分量の少ない方には好みの飲み物やゼリー等で対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者に合わせた支援をしている。声掛けや見守り、介助、場所の工夫が必要な方等、個々に合わせたケアの統一を図っている。介護記録の口腔ケアチェック表や介護記録を活用し職員の情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録(食事量、水分量、服薬、排泄状況、時間等)を確認しながら、入居者の排泄パターンを把握している。職員間で声掛けや記録の確認を行いながら、状態が変わればパット、紙パンツのサイズや必要性、トイレ誘導時の声掛けの方法をその都度検討し、より良い排泄行為が出来るよう支援している。	介護記録表に排泄状況を記録して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の健康状態や生活習慣、食事、水分量を把握し、日々の排便状態を把握している。便秘予防として乳飲料やオリゴ糖を飲食している。日中は散歩や買い物、生活動作においての運動をする事で自然排便を促せるよう心掛けている。医師や看護師からも助言を頂きながら緩下剤の使用も含めて便秘対策に講じている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者からの入浴の希望、お湯加減、洗髪や洗身方法等聞きながら楽しんで頂いている。発汗時や体調に合わせて適宜にシャワー浴や清拭にて対応し、同性介助が必要な方にも個別に対応している。	入浴は毎日、13時30分から16時まで可能で、順番や湯加減、好みの石鹸、季節の工夫として柚子湯など、一人ひとりの希望に添って対応し、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には、無理強いないで待ったり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の身体状況や生活習慣に合わせて居室やリビング等で安心して静養できるよう温度調節や環境に配慮している。居室以外ではリクライニングチェアや畳縁台を利用している。ベットが苦手な方には床にマットレスを敷き就寝して頂く事で安眠に繋げている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック表を使用して適切な服薬管理を行っている。職員は個々が使用している薬の目的や副作用、用途、や要領について理解し支援している。服薬後の状態変化などの観察を行い変化があった時には適宜、協力医療機関の医師に報告し指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の思いを大切に季節や月ごとの行事、毎日の生活の中で役割を持ち他者と関わる事で得られる喜びを大切にしている。料理、お茶、掃除等、それぞれ得意な事を活かしたかかわりを心掛けている	テレビやDVD視聴、新聞や雑誌を読む、日記を付ける、習字、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、紙細工、歌を歌う、トランプ、かるた、計算ドリル、ラジオ体操、3B体操、畑仕事(種まき、草取り、水やり、収穫)、裁縫(繕いもの)、掃除(モップで床を拭く、掃除機をかける、雑巾がけ、塵取りを使う)、花を生ける、花瓶の水替え、毛布を干す、シーツ交換、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を収める、新聞紙でゴミ袋づくり、ボランティア(手芸、音楽、踊り)の来訪、公民館活動参加(サロン)との交流、買物、外出、しめ縄づくり、など、利用者の喜びや張り合いとなる楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中から本人の思いを聞きだし実現できるように努めている。湯田温泉街の立地を十分に利用する事で散歩や外出、買物を行っている。外出が困難な場合にも苑内に閉じこもることなく少しでも戸外の空気や雰囲気を感じて頂けるようにテラスや玄関前のエントランスのベンチにて過ごして頂けるように工夫している。特に飲食に関して喜び楽しみに繋がるような外出を行っている。年に1度「スペシャルデイ」とし、担当者と共に日頃出来ない希望を叶える日を設けている。	事業所周辺の散歩や買物、美容院の利用、テラスでの日光浴や食事、公民館のサロン、足湯、季節の花見(梅、桜、紫陽花、菖蒲、彼岸花、蓮の花、コスモス、紅葉)、初詣、秋葉公園、井上公園、防府天満宮、弁天池、常磐公園、瑠璃光寺、吉敷川へほたる鑑賞、徳地花火大会、クリスマスのイルミネーション見学、ショッピングモールでの買物、外食に出かけている。年に1度の「スペシャルデイ」での、利用者の希望にそった外出、家族の協力を得て買物、外食、墓参、法事への出席、外泊、一時帰宅など、利用者の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際に個々の能力に応じて支払の支援を行っている。買い物希望時には現在の預り金額を伝えどのくらいの金額を持ち出したらよいか本人に確認する方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には苑内の電話を掛けたり受けたり、携帯電話を所持され自由に家族や外部の方と関わりを持つ事が出来るような環境を作っている。毎年家族や知人への年賀状の作成を行う。苑便りにて入居者の様子を定期的に知らせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備委員や安全対策委員を中心に居心地良い環境作りに努めている。共有空間には季節感が味わえる飾り付けを入居者と共に行う。	食堂兼居間は明るく、陽ざしはカーテンやすだれで調節している。食堂から続くテラスは夕涼みや戸外食を楽しめる場となっている。室内には季節の花を飾り、調理の音や匂いがし、テレビの音、談笑の音が聞こえて家庭的な雰囲気がある。廊下には長椅子や畳台が置いてあり、一人ひとりの居場所となっている。温度や湿度、換気に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや廊下、リビング、玄関エントランス等に木製ベンチや畳縁台を置くことで自由に好きな時に好きな場所で好きな人とくつろぐ事の出来る環境を作っている。本棚を側に置いたり写真を飾ることで入居者同士の会話が弾んだり思い思いの過ごし方ができるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある使い慣れたものを使用して頂く事が本人の安心感に繋がる事を家族へ説明し必要に応じて可能な限り持参して頂いている。好みの椅子やカーテン、のれん等を購入されたり、本人の思い通りに居室を飾ったり、家族写真や思い出の写真を飾るなど居心地良い空間作りの工夫をしている。	テレビ、机、椅子、箆笥、小ケース、衣装掛けスタンド、ソファ、手押し車、雑誌、帽子など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真や活動写真、自作品、色紙、カレンダーなどを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員事体が入居者にとって一番身近で重要な影響力のある環境である事を理解し支援していく必要性を管理者やユニットリーダーを中心に職員会議や日常的な職員の会話の中で話し合い注意し合い意識を高め合っている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 湯田あいおい苑

作成日: 平成 29年 1月 12日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	災害時緊急時の対応や判断が状況に応じてまだ十分に確立されていない。いざという時の地域の協力が不安である。	災害時、緊急時には職員の適切な対応を身につけ、ご近所の応援や地域の協力体制を築く。	資格を持った職員や委員会を中心に消防訓練や夜間時の実践的な対応の研修を行う。地域に関しては運営推進会議やご近所への顔なじみの関係を日常的に築いて消防訓練にも参加してもらう。必要な時のマニュアル等はすぐに活用できる形態を工夫する	12ヶ月
2	35	急変や事故時の対応において全職員が対応を身につけていない。	全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける	月1度のミーティング時を利用し応急処置や初期対応に関する内部研修を行う。AED講習やその他外部研修にも積極的に参加する。必要な時のマニュアル等はすぐに活用できる形態を工夫する	12ヶ月
3	18	理念を意識した関わり、声掛けの実践が出来ていない。虐待に結びついているかもしれない言動や行動、尊厳を意識せずに見過ごされている環境、風土がみられる。	理念を意識した関わりの実践 尊厳を徹底的に守り、虐待に関する問題点と気づく意識を高め見過ごされない環境、風土をつくる。	毎月のミーティングでチェックリストによる行動の振り返り また理念、尊厳、虐待についてテーマを決め話し合い意識を高める。安全対策委員会が中心になり外部研修、講師依頼を行う。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。